

秩父

埼玉陸士60期生会編集部

〒101-0025東京都千代田区神田佐久間町

1-14第2東ビル512号室

はやぶさ国際特許事務所

☎03-6303-3915

編集責任者：川島 順

令和4年1月1日発行



(題字は航士校幹事吉永朴閣下)

宇宙シリーズ X

地球の誕生

岡本 祥一

予科5-7

航空16-4

(川口市)



目次 宇宙シリーズ

I 太陽光発電 (秩父 144号)

II 膨張する宇宙① (秩父 145号)

III 膨張する宇宙② (秩父 146号)

IV 宇宙と軍事① 宇宙平和条約 (秩父 147号)

V 宇宙と軍事② 宇宙ゴミ除去 (秩父 148号)

VI 宇宙旅行 (秩父 149号)

VII 宇宙移住①・月へ (秩父 151号)

VIII 宇宙移住②・火星へ (秩父 152号)

IX 太陽 (秩父 153号)

X 宇宙シリーズ

地球

1. 地球の誕生

今から遡ること約50億年、そのころの宇宙は大小無数の星屑で覆われていた。宇宙のどこかで星の大爆発が起こった。この爆風により薄いガスや星屑が大きな渦を作り始めた。渦の中心には物質が集まってどんどん高温になり核融合が起き、太陽の誕生である。

一方、ぐるぐる回っている渦のなかで

は、ガスが冷えて細かな粒子ができた。粒子は集まってやがて微惑星と呼ばれる塊となった。微惑星は互いに引力で引き付けあって次第に大きくなる。

これが地球をはじめ惑星の原型になった。原始の地球はおよそ46億年前にできたと考えられている。

その時代の地球はマグマ状態(ドロドロ)であり、永い時間をかけて軽い成分が上、重い成分は中心に向けて沈みこんだ。そのため、深部ほど密度が大きい物質で構成され、全体として層構造が形成されたと考えられている。

2. 地球の層構造

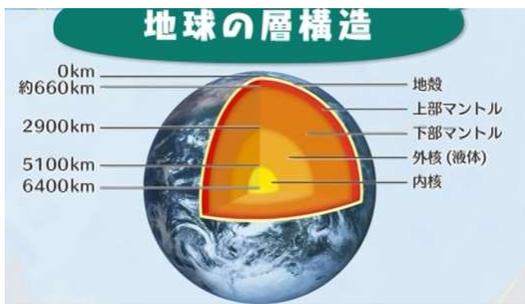
第1図に地球の層構造を示す。鉱物相などの化学的性状の立場からは、大まかに四つの領域に分割されている。

各領域の厚さと温度、並びに密度を比較して示す。地球の直径は約1万3千kmである。

地表：厚さ/約 0~40 km、温度/約 300 華氏°、密度/2.7~3.0g/cm³

マントル；厚さ/70～2,900 km、
/1,000～4,000° 密度/3.3 g/cm³
外核；厚さ/約 2,900～5,200km、
/4,000～6,000、密度/11g/cm³
内核；厚さ/約 5,200～6372 km、
温度/4,000～6,000、密度；11
g/cm³

地殻；地殻は地球の最も外にある層で、大陸基盤では上部が花崗岩質層、下部が玄武岩質層で構成され、海洋基盤では花崗岩質層を欠き、薄い堆積層の下に玄武岩質層があって厚さは平均7kmとされている。



第1図 地球の層構造

地球の深さ方向に対する層の分け方の内、上述のような地球化学的な性質に応じて分けるのに対して、地球物理的な分け方がある。地殻とマントル最上部の固い岩盤を合わせた部分の総称を岩石圏、或いはリソスフェア (lithosphere) と呼んでいる。プレートテクトニクス (大陸移動説) のプレートとほぼ同じ領域である。

プレート、或いはリソスフェアはユーラシアプレート、太平洋プレートなど14枚に分かれて地球表面を覆っており、それぞれが互いに相対運動している。相対運動速度は場所により異なり、年間数ミリから10センチメートル程度である。

プレート又はリソスフェアの下層部分は、アセノスフェアと呼ばれる、マントルの上部構造となっている。

マントル；マントルは、上層の地殻にくらべて鉄とマグネシウムが豊富な珪酸塩岩石で構成されている。固体ではあるが、マントル内の高温により粘性があり、きわめて緩慢ではあるが流動することができる。この流動層の上にあるプレートは引きずられて移動、地上に現れて大陸の移動の原因となっている。つまりウエゲナーの大陸移動説 (1912年) は、アセノスフェア層の流動性にあるとすることができる。

マントルの高温を引き起こす熱源は、地球が誕生した際の原初の熱、および地殻やマントルに分布しているウラン、トリウムなど放射性核種の放射性崩壊に伴って発生する熱である。

マントルは地下70～2890kmの深さまで及んでおり、最も分厚い層となっている。マントルは上部と下部に分かれており、地球化学的に遷移層で隔てられている。マントル下部の圧力は約140万気圧となっている。

外核、内核；地球の中心部となる内核は固体とされており地球の密度の比較から導かれた。地球の平均密度は5.514 g/cm³であるが、地表面の平均密度は約3.0 g/cm³となっており、高密度の物質が内部に存在すると結論付けざるをえない。地震波の解析から半径約1220kmの固体である内核とその外側に約2200kmにわたる液体の外核とする二つの部分に分けられることが示された。

内核と外核は主に鉄と若干のニッケルで構成されていると考えられている。内核はS波 (横波) の伝搬が可能であり、固体でなければならない。それに対して外核ではS波は伝搬せず、液体である。

3. 人新世

地球46億年の歴史は、地層に残る化石などをもとに区分されている。古生代紀、中生代ジュラ紀等があり、現在は1万1700年前から続く「新生代第四期完新世」にある。人類の活動が地質に刻ま

れる時代をこの完新世から独立させようというのが人新世である。現在関連学会で調査検討中であり2024年頃正式には決まるであろう。

どこからが人新世なのか。1950年代とする考えが有力とされている。核実験による放射性物質、プラスチック、石炭の燃えカスなどが地層に残り、地球的規模で変化が起きた節目として区別しやすいからだという。

4. 温室効果ガス

地球人口約70億（国連、2019年）、これだけの人口を養う資源は地球には無い。対策の一つとして温室効果ガス削減が世界的に検討され始めた。2014年には温暖化対策の世界ルール「パリ協定」が採択され、2024年には正式に決まる予定となっている。

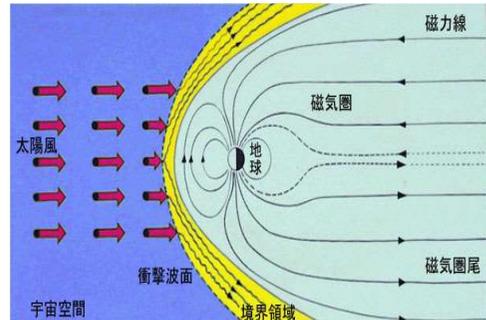
「パリ協定」では産業革命前からの気温上昇を2度よりかなり低く、1.5度に抑える努力目標を掲げている。日本も昨年、菅前首相が2050年に排出を実質ゼロにすると表明、目標は法律に明記された。目標達成のために政策決定や企業活動、個人の生活でも温室効果ガスの削減を念頭に置いて動く必要がある。仮に目標を完全に達成できなくても可能な限り温暖化を抑えれば人間社会への悪影響を抑える事はできる。日本は「2050年排出実質ゼロ」の実現へ対策を具体化し、更に高い目標を目指して、世界をリードしたい。

5. 地磁気

方位磁石が北を向くことから分かるように地球には磁場がある。この磁場を「地磁気」と呼んでいる。地磁気は、地球内部の核の対流運動、太陽活動との関わりその他、地殻の活動など様々な地球環境の変動に応じて、刻々と変化を続けている。地磁気の大部分は、地球内部の外核といわれる部分で発生している。ここでは鉄が主成分となっており、巨大な圧力と高温の条件下で熔融状態にある。地

球内部磁場はこの導電性の高い鉄の流体運動により生じる電流により発生するものと考えられ、盛んにその研究が行われてきたが、詳細は今なお未解明である。

宇宙空間に広がった地球磁場は、太陽から放出された高エネルギー粒子の流れ（太陽風）の影響を受け、太陽と逆側に吹き流されたような形をしている（第2図）。



第2図 地磁気による太陽風の遮断

この地球磁場が支配する領域は磁気圏であるが、地球は磁気圏をもつことで生物に有害である太陽風がシャットアウトされ、我々人間や多くの生物が地表で活動できている。

6. あとがき

天体関連の話題は多い。暗黒物質、暗黒エネルギーなど特に量子論が支配する領域である。筆者の理解力をはるかに超えるテーマであり、この辺で擱筆せざるを得ない。この十数年、秩父の原稿作成で多くの勉強をさせていただいた。この貴重な機会を与えていただいた秩父の編集責任者川島君に心からの感謝を申し上げる。

根本博中将の英断により 張家口邦人4万人が救出された

川島 順 予科21-7
(越谷市) 航空7-1



はじめに：

昭和20年8月8日、突如、ソ連は日本に対して宣戦布告をすると同時に、ソ連軍は満州、樺太及び千島列島に侵攻してきた。



当時の情勢は、ドイツが5月7日に連合軍に対して無条件降伏し、6月23日沖縄は連合軍に占領され、7月26日に連合軍の日本に対する降伏要求であるポッドム宣言が発表され、8月6日に広島に原爆が投下され、まさに日本はポッドム宣言を飲むか否か苦しい選択に迫られている矢先であった。

しかも、ソ連は日本と1941年4月13日、中立条約を締結している。この中立条約は5年間有効で、期間満了の1年前に予告することによって破棄通告しうることになっている。

しかしながら、ソ連はこの中立条約に対して4月5日に破棄を通告してきた。

日本はこれを拒否したが、中立条約の有効期間満了に先立って8月8日、日本に対して宣戦布告をした。まさに火事場泥棒的不信行為である。

一方、日本は、この中立条約を信じて、連合軍に対する停戦協定をソ連に依頼するというお人好し的外交を行うばかりか、日本の軍部は、ソ連の参戦はおそらく6ヶ月先であると極めて楽観的な見通しを立てていた。

1. ソ連軍の満州侵攻

図1に示すように、ソ連軍は8月9日、満州の東部、北部、西部の三方から一斉に満州の国境を越えて侵入してきた。その数は80個師団157万人、戦車、自走砲約5600両、航空機は約3500機である。それに対する日本軍の勢力は、精鋭を誇った満州軍も南方戦線に兵力を割かれ、24個師団68万人、戦車200両、航空機200機に過ぎず、その戦力差は歴然としていた。

しかも、長期戦を予想して、北方の兵力を、南の山岳地帯へ移動する撤収作業の最中であった。

2. ソ連軍の残虐行為

東部方面の要塞に立てこもった日本軍は善戦したにも拘わらず、物量に勝るソ連軍に壊滅され、東部正面最大都市である牡丹江も8月16日陥落した。

ソ連軍の侵攻により各地で虐殺や強姦などの悲劇が起こった。8月25日～27日、パルプ工場に進駐してきたソ連軍は女性170名を独身寮に監禁し、強姦や暴行を繰り返し、23人を自殺に追い込んでいる。一方、西正面では、最初から国境の遙か後方の新京一奉天地区に兵力を集中していたので、ソ連軍は容易に日本軍の前線部隊を撃破し8月15日には大興安嶺を突破し新京に近づいていた。

そのため、興安省北部にいた居留民は避難の途中、ソ連軍に襲撃され、大きな

犠牲を払っている。その一例を挙げれば、8月14日、満州北西部の葛根廟で避難中の開拓団の女性・子供ら約1200人が戦車14両、トラック20台のソ連軍と鉢合わせし、白旗を揚げたにも関わらず、ソ連軍は機銃掃射を行い、更に戦車でひき殺した。その数千人超、200名は小学生であった。

また、8月25日、吉林省洮南西方20kmで起きた仁義佛立請開拓団の400名の受難事件で、ソ連軍が満洲に侵攻した直後、8月12日、開拓団にも関東軍がいる新京方面に脱出するよう避難命令が出された。脱出の途上、開拓団はソ連軍機の空襲や現地の中国人暴民の襲撃に遭いながら逃避行を続けたが、8月25日に洮南西方20kmの地点でソ連軍の自動車化歩兵部隊と遭遇した。ソ連軍は避難民へ向けてトラックで突進しながら機銃掃射を行い、多数の避難民が射殺された。その後、トラックから降りてきたソ連兵が避難民に対して、生死を問わず銃剣などで止めを刺していった。



根本博中将

児童ですら小銃の台尻で殴り殺されたという。避難民の中には絶望して自決した者も相当数にのぼり、生存者は僅か20人ほどとされている。

このように満州各地では悲惨な惨劇が

繰り返されていたが、幸運にも無事帰国できた集団もある。これらは何れも最上層部の指揮者の英断によるものである。

その一つは内モンゴルに駐留していた駐蒙軍司令官根本博中将による居留民の救出作戦である。

本稿は、終戦時、張家口から4万人の在留邦人を無事救出した根本博中将の英断と救出作戦の経過について述べたい。

まず、根本中将のプロフィールを紹介する。

3. 根本博中将の略歴とエピソード

生い立ちは福島県岩瀬郡仁井田村の農家の出身で、1904年（明治37年）仙台陸軍地方幼年学校入学、中央幼年学校を経て1911年（明治44年）陸軍士官学校卒（23期）、1922年（大正11年）陸軍大学卒（34期）。

陸大卒業後、原隊復帰を経て陸軍の中央部署において主に支那畑を歩む。

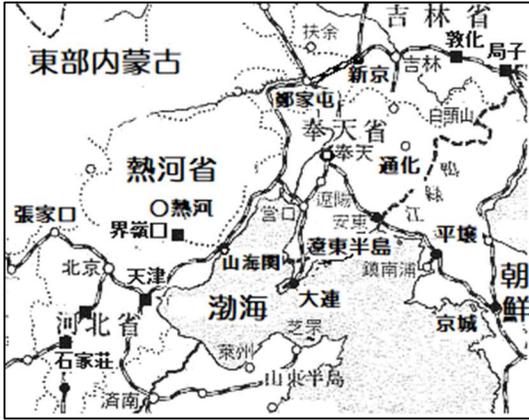
南京領事館付駐在武官として南京に駐在していた1927年（S2年）3月、南京事件に遭遇、領事館を襲撃してきた北伐軍（中国国民党の蒋介石傘下の全国統一を目指す勢力）の暴兵に素手で立ち向かい、銃剣で刺され重傷を負った。後で語った所によれば、自分が死ぬことにより、幣原外交の軟弱さを替えようと思ったとのこと。

1930年（S5年）8月、中佐として参謀本部支那班長となる。この時期において形成された当時の支那・蒙古の要人、徳王、蒋介石、傳作義等との親交による人脈により、終戦時の在留邦人や軍隊の撤収作業をスムーズに行うことができた。1944年（S19年）11月、駐蒙軍司令官に就任し、翌年終戦を迎える。

4. 張家口からの在留邦人撤収作戦

張家口は内蒙古の東端、北京西北約200km、当時の内モンゴルは、徳王を主席とす

る蒙古自治連合政府の統治下にあり、首都は張家口におき、日本軍は駐蒙司令部と独立混成第二旅団（独混第二旅団）を配置していたが、情勢緊迫に伴い第118師団を増加配置した。



東部内モンゴ要図

張家口からの邦人救出策戦の詳細は、張家口北部の丸一陣地で守備をしていた独混第2旅団の参謀辻田新太郎少佐（44期）が偕行誌上で詳細に記載している（偕行第322号：昭和52年12月）。本誌はその要部を次に紹介する。

昭和20年8月19日、支那派遣軍司令官は大本営命令に基づき、次の命令を下達した。「北支方面軍司令官ハ、ソ連軍ガ蒙疆方面ニ突進スルニ当タリテハ、戦闘行為ヲ停止シ、適宜、停戦交渉ヲヨビ武器引キ渡シナドヲ実施スベシ」。

8月20日、この命令を受けた駐蒙軍司令官根本博中将は、「本職ハ傳作義ノ申シ入レニ応ジ、八路軍オヨビ外蒙ソ連軍ノ侵入ハ敢然コレヲ阻止スル決心ナルモ、モシ、コノ決心が国家ノ方針ニ反スルナラバ、直チ二本職ヲ免ゼラレ度」と進言したが却下された。

抗命するわけではないが、現実には即した行動に出ることが現場指揮官の責務だと信ずる。もしも、軍司令官が上司の命令通り部隊に投降を命じたとすれば、蒙疆は満州と同じ運命に陥ったに違いな

い。

私は（辻田参謀）は、自ら歩兵五コ大隊を基幹とする独混第二旅団（轟兵団とも呼称されていた）を指揮して国境陣地を死守した。旅団長が方面軍参謀副長に引き抜かれ、参謀がその代理を命じられたことは異例の扱いである。

戦闘開始に当たり私は次のように訓示した。「我々は駐蒙軍の後衛（殿軍）である。昔から殿軍（しんがり）は武人の最高名誉、前衛には本体の支援があるが、後衛にはそれが無い。戦国の昔、木下藤吉郎が進んで殿軍を引き受け、織田の越前撤退を成功させた。世に言う「金ヶ崎の殿軍」と称揚されている。今、我々はその殿軍を見事に勤め上げ音に響いた轟兵団の名を辱めないようにしようではないか」。

8月14日に姿を現したソ連軍は、総員約4万2千名、戦車・装甲車約4百両、砲6百門を有する機械化部隊で19日、我が陣地に攻撃を加えるとともに、投降を迫ってきた。

数度の交渉を粘り強く重ね居留民の撤退の為の時間を稼いだ。

焦り始めた敵は、遂に21日、攻撃を開始し、猛烈な火力支援のもと兵力2000の部隊が我が陣地内に突入してきた。



張家口撤収作戦要図

しかし、我が軍は勇戦してこれを撃退する。背後に迂回侵入してきた別の敵約百に対しては宮崎少尉の指揮する部隊がこれを撃破し、3km余も追撃して長城外に追い払い機関砲、迫撃砲などを奪取した。

21日15時、張家口の軍司令部の泉参謀から「張家口付近の官民の撤退は極めて順調に進み、誠に濟まないが軍司令部はこれから後退する。武運長久を祈る」と電話してきた。これで文字通り孤立無援でとなった。

21日23時頃、戦車伝令によって、援護任務解放の命令を受けた。

先ずトラックで負傷者を送り出し、その後、1個小隊ずつ隠密に陣地を脱出した。夜間の白兵戦で日本兵の強さを知ったソ連軍は前線から後退していたため日本軍の撤退に気づかず、追ってこなかった。

轟軍団は山中を150km余り徒歩で行進し、6日後の8月27日、万里の長城の八達嶺の関門、青龍橋にたどり着いた。

軍団の将兵は疲労を隠して堂々と胸を張って行進して青龍橋の関門をくぐり抜けた。これを迎えた中川参謀総長は、「後衛部隊整々たる隊列を以て来着す、士気旺盛なるも長き頭髪と髭とは無言に長期の苦勞を示す。小官感極まり落涙あるのみ、慰謝の辞を述べる能わず」と。

5. 蒙古地区在留邦人引き上げの状況

一方、蒙古地区に在住していた在留邦人の引き上げの状況はどのようなものであったか。たまたま、ネットで入手した「伊勢雅臣著：地球史探訪：同胞4万救出作戦」の記事を参考にしてその概要を紹介したい。

張家口の在留邦人は昭和20年8月15日正午、天皇陛下の玉音放送を聞いた。20日午後、隣組を通じて「国民学校に集まれとの一時退避命令」を受け

た。夕方になってトラックが各家を回って避難民を乗せた。各家では成人男子は殆ど招集されていたので殆ど女子供の集団であつた。避難民を乗せたトラックは国民学校ではなく駅に向かった。

「一時避難」とは偽の命令で、もしも「引き上げ命令」を出せば、多くの家財を持ち出し、そのため集合が遅れたり、大量の荷物で列車に乗れなくなる恐れがあつたので、あえて駐蒙軍は偽の命令を出した。これは、満州において関東軍が8月10日に居留民の緊急避難の輸送計画を立てて集合を通達したが、数時間の準備では出発は不可能と反対し、11日になっても誰も駅に集まらなかったため、結局、軍人家族のみ第1列車に乗せた。これが、一般人の非難の種となつたことを顧慮に入れての駐蒙軍の苦肉の策であつた。

わずかの着替えと1食分の弁当を持って駅に集まった数万人の群衆は貨物列車に押し込まれた。

しかし、夜になつても列車は出発しなかった。雨のそば降る中、無蓋列車に寿司つめになった婦女子は濡れ鼠になつて出発を待った。

その頃、数10km南方の路線では八路軍によって爆破された機関車と客車を日本軍の兵士が線路から除くための作業をしていた。4、5時間でこの作業が終わり、汽車の運行が可能になった。夜10時頃避難民を満載した一番列車が発車した。

駐蒙軍の野戦鉄道司令部は、引き上げ列車に食料を供給するため、17日頃から軍の倉庫にあった米や乾パンなどを沿線の各駅にトラックで輸送していた。トラックに乾パンを満載し、陸橋の上で待ち構え、通過する列車に乾パンを次々と投げ入れた。又、駅では国防婦人会の人達が炊き出しをしておむすびを差し入れてくれた。沿線にあるリンゴ畑では警備の兵隊さんがリンゴをもぎ取り列車に投げ入れてくれた。

しかし、八路軍の攻撃は執拗であった。周囲の山から無蓋車めがけて銃を撃ちかけてくる。第118師団の将兵は防戦に駆けずり回ってくれた。

8月21日、張家口から40km南方の宣化の駅でも停車していた列車めがけて八路軍が襲撃してきた。貨物輸送のためたまたま通りかかった山本軍曹率いる20名の日本兵によって、撃退された。

この引き上げ列車、普段なら10時間できく天津に3昼夜かけて24日午後到着した。

避難民は日本租界の小学校に収容された。蒙古政府の日本人官僚達は天津でも食料や衣服の供給に一生懸命働いてくれた。

10月に入ると引き揚げ者の間で発疹チフスが流行して多くの人が命を落とした。

10月16日、引揚げの第一船、江ノ島丸に乗船することができた。対馬沖で緑したたる森の中に赤い鳥居を見たときは引き揚げ者達はデッキに鈴なりになり泣いていた。

このようにして4万人の蒙古在住者は途中で多数の死者を出したものの、満州各地の引き揚げ者に比べて遙かに恵まれた条件で祖国の土を踏むことができた。これも、最高指揮者の英断によるところが多い。

なお、この轟兵団の活躍によってソ連軍の北京への侵攻は阻止され、北支における40万人の在留邦人の生命を守ることができた。

6. 北支に於ける在留法人の引上げ状況

この際、北支方面の状況を付言する。

終戦前後から、国民政府軍と共産八路軍との間で、日本軍武器の争奪を巡って各地で衝突が起きていた。

北支の日本軍の武装解除の責任者として国民政府軍の閻錫山将軍が指名されていたが、閻錫山の部隊は黄河沿いに分散駐留していたので、これを集約して太原まで列車

輸送しようとしていたが各地で八路軍の妨害を受け、太原への到着が遅れていた。北支には日本の第1軍が展開していたが国民政府軍の要請を受けて、閻錫山軍の太原侵出を支援し、8月26日に閻錫山軍は太原に到着した。

前述の根本中將が張家口死守の決心をしたのも戦前から根本中將と親交のあった国民政府軍の傳作義の要請によるもので、国民政府軍と日本軍との間にはこのような人脈が多く存在していた。

さらに、閻錫山は日本の第1軍の山崎参謀に「日本軍の武装解除は当分行わない。別命あるまで北支の保安任務に当たって欲しい」と要請した。これはソ連軍及び八路軍の侵攻を阻止するために日本軍も共に戦って欲しいとの要請である。

現に、第1軍の一部の部隊約500名は、最後まで太原に留まり、八路軍と戦ったが昭和24年4月24日、遂に太原城は陥落し、守備隊の長今村大佐は自決、他は戦犯として捉えられた約10年近く抑留された。

しかし、このような日本軍の協力に対して、国民政府は在留邦人の引き上げや賠償請求・戦犯の取り扱いについては格別の温情的取り扱いをしている。

大東亜戦争下における 泰緬鉄道の建設

柳沢 孝興

陸自71
(さいたま市)



1. はじめに：

ガダルカナルの遺骨収集への参加に前後して、個人的に、タイからビルマ（現在のミャンマー）国境の山岳地帯を陸路で越え、4回にわたりビルマを訪れました。

その都度、泰緬鉄道の悲劇を見て廻る機会を得ました。今回、泰緬鉄道について紹介します。

2. 泰緬鉄道とは：

泰緬鉄道とは大東亜戦争下、日本軍がタイのノンブラドックからビルマのタンピュザヤ迄、総延長415kmに及び鉄道を僅か1年3ヶ月で建設した鉄道です。



泰緬鉄道要図



泰緬鉄道の現在の運行区間の詳細図

この鉄道の建設は、タイとビルマの国境に近い急峻な地形に対して機械力もなく殆ど人力によって完遂されました。東京オリンピックに際して建設された新幹線（515km）が5年の歳月を要したことと比較すると、まさに驚異的な早さです。このように偉大な功績を残した先輩の多くが戦後の戦犯裁判で捕虜虐待の責めに問われ53名の英霊が処刑されました。英霊の心中を察すると涙なくては語れません。

なお、クワイ川の本名はメークローン川です。クワイ川は映画「戦場にかける橋」のクワイ川マーチで有名になったので、現地でも観光用にクワイ川と呼んでいます。現地では、クウェー・ノイ川（小クウェー川：図では下方に流れる鉄道線に沿った川）とクウェー・ヤイ川（大クウェー川）が合流した下流はメークローン川と呼んでいます。本稿ではクワイ川で記載いたします。

3. 泰緬鉄道建設の目的と計画

大東亜戦争の目的の一つに、石油資源等の確保が挙げられています。戦略的資源の供給を押さえられた日本は、長期不敗の態勢を確立するために、資源を求めて各地に進出しました。

国防圏の西翼の支とう地域としてのビルマには、援蒋ルートへの遮断、石油資源と飛行場群の確保等が目的とされました。

ビルマへの進出は、当初、泰(タイ)緬(ビルマ)国境の山岳地帯を踏破し、ラングーン確保後は、海路からの戦力の投入、補給が可能となり、船舶による補給の量的確保が期待できる態勢となりました。

この結果、エナジンの油田確保、援蒋ルートへの遮断が実現し、援蒋ルートの中のレド公路圧迫等の戦果拡張の段階に移行しました。

しかしながら、ミッドウェー海戦、連合軍のガダルカナル島への反攻開始等により、日本の海空軍戦力が転用され、予期せぬ消耗戦に引き込まれる等の新たな局面に対応せざるを得ない情勢になりました。このため、ビルマ戦線への海上輸送が危険となり、輸送量は限定されますが安定的な鉄道輸送経路が必要になりました。これが、泰緬鉄道建設への要求でした。しかも、建設完了の期限は、当時、計画されていたインパール作戦のための戦力推進、補給品の輸送等のため、約1年余りとされました。

4. 泰緬鉄道建設

泰緬鉄道の建設は、英軍も計画していたのですが、建設期間は、約5年を要すると見積られ建設断念に至りました。泰緬国境の急峻な地形とマラリア・コレラ等の疫病の蔓延地帯であったことが、建設断念の理由でした。このため大本営及び南方軍の要求に対応するためには、建設経路を、地形的に平坦な経路を選定し、建設期間を短縮する努力が最優先されました。

具体的には、「トンネルを造らない」、「木材等の現地資材を最大限活用」、「現地労働力の活用」等を大原則として、建設を計画しました。このため、泰緬鉄道には、トンネルが皆無であり、鉄橋は、1ヶ所のみで、他の橋梁は、すべて木製

でした。戦時のため現地労働力は、逼迫して、かつ使用予算は、現地部隊要求の半以下の700万円に制限されたため、戦時捕虜を活用せざるを得ない状況で、「枕木1本、死者1名」と言われる多くの犠牲が発生しました。

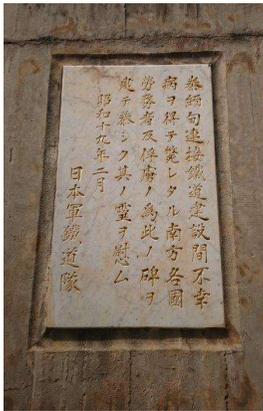
南方軍鉄道隊は、レール等の資機材の運搬のため現地河川の水運を最大限活用する等の工夫を図り、建設期間の短縮に努め、先行的かつ、独自の努力により、泰緬鉄道415kmが昭和18年10月、1年3ヶ月の工事期間をもって完成しました。その原動力は、機械力が期待できないため、殆どが人力によるものでした。



泰緬鉄道建設の碑（始発駅のノンブラドック駅構内にある）



泰緬鉄道建設の碑（クワイ川鉄橋の近くに建てられた碑）



泰緬鉄道建設の間不幸にも病を得て斃れたる南方各国の労働者及び捕虜の為此の碑を建て恭しくその霊を慰む
昭和十九年二月 日本軍鉄道隊

泰緬鉄道建設慰霊の碑の説明文とその要旨



泰緬鉄道の唯一の鉄橋・クワイ川橋梁
(現在健在で、活躍中、泰緬鉄道の他の橋梁はすべて木製)



河川棧橋と鉄橋
(泰緬鉄道の建設時、資材の運搬には、並行する河川も活用された。)

5. チョンカイの切り通し

インパール作戦開始の昭和19年の前年に開通した泰緬鉄道の涙ぐましい建設の状況を表している典型的な例が、チョンカイの切り通しです。



泰緬鉄道のチョンカイの切り通し (右側の河川は、レール等の運搬に活用されたクエーイ・ノイ川(クワイ川の上本流))



泰緬鉄道のチョンカイの切り通し
(機械力が期待できず、すべてを人力に依存したチョンカイの建設現場)

その他、泰緬国境の峠付近にも、工事の厳しさを物語る場所が、数多くあります。

泰緬鉄道は、急勾配を避け、平坦な線路を実現するため切り通しや絶壁を切り開いた場所が多く断崖ギリギリに迫る危険箇所が多く見られます。現在は、その恐怖感が売り物とされ、観光上の名所となり、人気を博している皮肉な現象となっています。

6. 泰緬鉄道の今は

泰緬鉄道は、戦後、ビルマ側の路線は、英軍の命令のもと、旧日本軍により、線路が撤去、レールは、ビルマ国内の鉄道補修に転用されました。タイ側の路線は、5000万バーツでタイ政府に売却されました。今や、泰緬鉄道は、シンガポールまでの貴族的な雰囲気誇るマレー半島イースタン鉄道の貴賓列車が、わざわざ支線に入って来る観光ルートになっています。

マラリア、コレラ等の病魔に侵され、飢餓に苦しみながら建設に従事した当時の将兵の労苦を想うと頭が下がります。

建設中命を落とした幾多の英霊に対し心やすかれと祈るのみです。



泰緬鉄道の観光のため、タイ国鉄南線からクワイ川方面に迂回する貴賓列車（クワラルプールを経てシンガポール行の列車）



クワイ川鉄橋の広場に展示されている鉄道牽引車（線路上でも道路上でも走行で

き資材運搬に大活躍した。陸自輸送学校にも同型が展示されている）



欧米の観光客と共に談笑中のタイ軍人（シンガポールとバンコックとの往復に使用されている日本製のダイニング車両）

日本で初の戦闘機の 女性パイロット誕生

1980年以降先進国では女性戦闘機パイロットが誕生し活躍している。

日本でも2006年防衛省が「防衛庁における男女共同参画に係わる基本計画」を策定し、その一環として2015年11月、戦闘機と偵察機への女性自衛官の配備制限を解除した。その結果、女性戦闘機パイロットの門戸が開かれた。

15年ほど前になるが、埼玉偕行会の総会で航空自衛隊の女性パイロットの草分け、佐藤香苗一等空尉のお話を承ったことがある。佐藤1等空尉は、大学卒業後銀座でOLをしていたが、ある日突然思い立ち航空自衛隊に入隊、奈良の幹部候補生として飛行機の操縦を習い、卒業後、C1輸送機の機長を務めていた。

あのでかいC1輸送機を女性が操るとは、皆驚いたものである。

なお、佐藤空尉はその後、結婚され、2013年、玉越香苗2等空佐となり、日本初の女性飛行隊長として輸送機パイロットを育てる第41教育飛行隊の隊長に就任し、さらに2015年、1等空佐に昇任、府中基地の航空支援集団司令部に勤務されているとのこと。

その当時の話では、戦闘機には女性は乗せないとのことであった。

松島2等空尉は、小学生の時、映画「トップガン」を見て戦闘機パイロットに憧れていたが、その後、防衛大学に入校、2014年同校を卒業後、航空自衛隊に任官した。この時点では女性には戦闘機のパイロットは配置制限で認められなかったため、輸送機操縦課程に進み、2015年になり、配置制限解除を受け

て戦闘機操縦課程を志願し、2016年から訓練を開始、2018年晴れて日本で初の女性戦闘機パイロットに任命された。

現在、F15Jの戦闘機操縦者として抜擢され、実動部隊である宮崎県にある第305飛行隊に配属され、対領空侵犯措置任務に従事している。



F15J イーグル戦闘機



F15J 機上の松島2等空尉

中国、ロシアの領空侵犯事件が多発している昨今、さぞ過酷な日常をお過ごしのことと思いますが、健康に留意され、さらなるご健闘をお祈りする次第である。

(令和元年防衛白書より一部抜粋：川島記)

【図書紹介】

夢野久作と杉山三代研究会会報【民ヲ親ニス】第8号（令和4年1月）

発行人：竹田仰、編集人：竹田仰、杉山満丸、手島博、発行所：「夢野久作と杉山三代研究会」¥2000.



ので、その他約 200 に及び作品を発表している。杉山泰道は父茂丸に命ぜられ福岡県に約 5 万坪の土地を購入、「杉山農園」を開設した。この農園が、満丸がインドでの自力での緑化事業の資金源となった。

杉山龍丸は、陸士卒業後、満州から一式戦闘機はやぶさの整備隊長としてレイテに転進し、米軍に制空権を完全に押さえられた劣勢の中「幻の戦闘機隊」として活躍した。この話はご子息の杉山満丸氏が「幻の戦闘機隊—グリーンファーマーの青春譜—ファントムと呼ばれた士たち」2015年3月、書肆心水刊。また、秩父127号～132号（平成27年4月～平成28年7月）に連載されている。

戦後はインドの緑化に私財をなげうって尽くしている。この話は、杉山満丸氏著「グリーン・ファーマー—インドの砂漠を緑に変えた日本人・杉山龍丸の軌跡」2001年、ひくまの出版刊のほか、秩父133号～138号（平成28年10月～平成30年1月）に掲載されている。さらに本刊行物の中にも紹介されている。

そのほかアフガンで活躍された中村哲医師との関係、台湾の蓬莱米をインドに輸出した時の話、大阪神戸インド総領事サンジーヴァ・ジャイナ氏の挨拶、インド大使館の文化センター所長シッダールト・シン氏の挨拶、杉山龍丸氏が創生した「国際文化福祉協会」のこと、夢野久作著書目録等多数掲載されている。

本誌は陸軍士官学校第 53 期の杉山満丸氏を中心にして祖父杉山茂丸、父杉山泰道の三代の功績・エピソードを纏めたものであります。

祖父杉山茂丸は明治から大正にかけての所謂愛国の志士として、児玉源太郎や桂太郎と秘密結社を結成、日露戦争の裏でロシアの戦争継続を妨害し、日露戦争の幕引きに一役かっています。そして日本の近代化を進めるために銀行の設立や九州地方の鉄道の開発、港湾の近代化等に力を注ぎました。その一方、孫文やビハリー・ボース等を援助したり、インドの窮状を大隈重信に訴える等、人道的な分野でも活躍しておりました。

父の杉野泰道はペンネーム夢野久作という小説家で、代表作は日本の三大奇書といわれる「ドグラ・マグラ」の探偵も

事務局だより

世話人会・委員会報告

◎報告

(1) 歩こう会

昨年度から埼玉偕行会に運営をお願いしているが、令和3年度は総てコロナのために中止され、令和4年4月から再開する予定である。

(2) 秩父153号(令和3年10月)

予定通り10月1日にPDF電子版として発行された。秩父154号は予定通り令和4年1月電子版として発行される。

(川島)

【本部報告】

☆世話人会(代表田中正和)

令和3年10月16日(土)久しぶりで世話人会が開催された。

会場は新しく新設された偕行社で行われた。参加者7名。

◆偕行社の住所変更に伴い、陸士60期生会の会則も変更された。

◆偕行社の最近の動向及び将来問題に着いての説明があった。

(1) 会員数

令和3年4月の会員の状況は：

会員総数：4533名

普通会員：3769名

(陸自OB：2821名、

旧軍関係：948名)

家族会員：535名

賛助会員：229名

(2) 資産状況

現状の収支状況を継続した場合、令和14年度で資産が枯渇する。

新社屋の購入や事業関連費の節減により将来の資産状況を検討する試算を行っている。

(3) 陸上自衛隊幹部による事業継承：

上記のように旧軍関係の会員は急速に減少しつつある。偕行社の理念を継承し

よき伝統を引き継ぎ、英霊の慰霊顕彰を行う後継者は陸上自衛隊幹部以外にない。しかし、偕行社に対する陸上自衛隊幹部の認識度は余り高くない。従って、偕行社と陸上自衛隊幹部との意思疎通を図り、陸上自衛隊幹部の積極的な参加を勧誘すべきである。

◆公益財団法人偕行社の新社屋は：

〒160-0002

東京都新宿区四谷坂町12-22

VORT(ボルト)四谷坂町5階

☆世話人会(代表田中正和)

令和3年12月1日(水)13:30～
参加者8名。

代表田中正和(11-6)吉田正人(1-6)

田村正夫(4-6)甲斐啓一(8-10)

川島順(21-7)織田昭(24-8)

鈴木芳雄(25-6)鈴木一直(32-8)

◆総務委員会

当面の方針として、花だよりの編集。名簿の管理及び永代神楽祭と靖国神社の参拝は継続するが、これ以外の事業は極力縮小の方向で考えている。

令和4年1月の懇親会は見送り。

偕行社に登録の60期生の名簿を配布。この名簿によれば、60期生の登録者は223名。

参考までに、川島がドロップボックスの60期生の名簿で調査した結果

令和3年11月末現在

生存者 1219名、

物故者 4261名

計 5480名であった。

◆偕行社

極力経費節減に努めている。

来年から偕行誌の発行は隔月とする。

◆世話人会終了後偕行社事務室で懇親会を行った。

◆次回世話人会は

令和4年3月4日(金)13:30～

【将校集会所】

☆下記の会報等の寄贈を受けました。
 ＊埼玉偕行会だより第15号（令和3年12月）

秩父153号に対し多数の方々から礼状、感想等を頂く。

◆山瀬恵子様「…日本の軍隊と聞くと上が滅茶苦茶下をいじめるような印象がありますが、そんな中でも立派で強い実力ある方々を輩出されたことを知り、戦後育ちの私達のような軟な人間にはない様子にまぶしさを感じます。……」

◆川崎良枝様「…小川三郎中佐のお話には感銘を受けました。また近い将来に未来都市の実現など興味深く拝読させていただきました。

【編集後記】

◆岡本祥一の地球の話、50億年前にチリからできた地球に何万何億という生物が生息していることはまさに奇跡である。宇宙の神秘は計り知れない。

◆根本中将の英断が多くの人々の命を助けた。非常の場合上に立つ人の決断が如何に重要であるか、このような立派な先輩がおられたことを我々は誇りに思います。

◆泰緬鉄道：驚異的な早さで難工事を仕上げ、日本軍のビルマ侵攻を助けた先輩の努力には感動する一方、その中の多くの方が戦後戦犯として裁かれた。英霊の心中を察するに余りあります。

この度陸自0Bの柳澤氏より立派な原稿を頂きましたが、その他の陸自0Bの方の投稿を期待しております。

令和4年 埼玉偕行会“ゆっくり歩こう会” 予定表

まとめ役：竹下泰義（陸自70）、黒沢利光（陸自76）

日時	集合場所	見所	担当
4/17（日） 11：00	西部新宿線、航空公園駅、東口	防衛医大～航空公園	竹下
5/15（日） 11：00	西武新宿線 東村山駅西口	郷土資料館、久米川古戦場跡北山公園	黒澤
6/19（日） 11：00	J R中央・総武線各停 信濃町駅改札口	オリンピックスタジアム（新国立競技場）、明治神宮外苑	竹下
9/18（日） 11：00	J R代々木駅 出口：A-1	明治神宮 太田記念美術館（浮世絵）	黒澤
10/16日） 11：00	J R青梅線 御嶽駅改札口	玉堂美術館、御嶽峡谷 小沢酒造	黒澤
11/20日） 11：00	東部野田線 北大宮駅、改札口	埼玉県護国神社、大宮公園 武蔵一宮氷川神社	竹下

【携帯電話】

小林武一 090-9209-7103 竹下泰義 090-7748-1810
 黒沢利光 04-2964-7084 田村正夫 080-1111-4530
 川島 順 090-2153-2335 福島孝夫 090-4838-6561